

平成30年3月発行

へい わ 平 輪

～ ここが、スタートライン ～

発行：松本市平和推進課 長野県松本市丸の内 3-7
長野県地域発元気づくり支援金事業

【 表紙デザイン 】
エクセラン高等学校 美術科 前川咲貴

松本ユース平和ネットワーク

——第1章——

「軍都」松本を知る

『世界の恒久平和』という願いを叶えるために、私たちに出来ることはなんなのでしょうか。

ものごとを始めるとき、「知る」「調べる」ことからスタートする人が多いと思います。私たちは、平和についてもそうだと改めて考えました。

戦時中に何が起こり、当時の人は何を感じていたのか。過去について知ること、調べることが、「平和」の始まり、その第一歩になるのではないかと思います。

まずは、この松本の地に関わる「戦争」のことを少しずつ知ってみませんか。



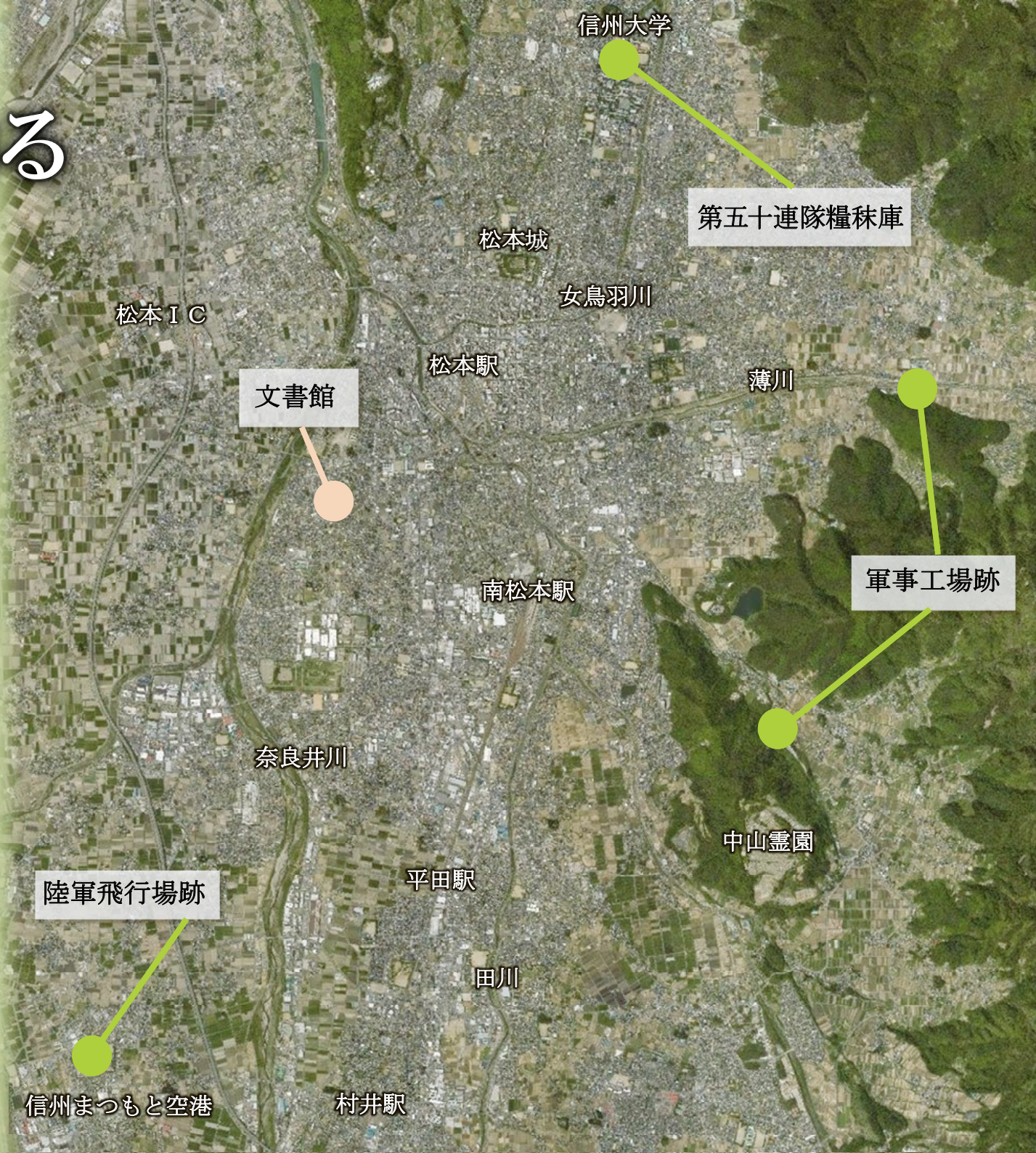
「軍都」松本

軍の施設が多い都市のことを「軍都」といいます。かつての松本市は、そのひとつに含まれていました。

◆ 1908年（明治41年）「旧陸軍歩兵第五十連隊」の駐屯地（現在の信州大学敷地内）の設置

◆ 戦時中、浅間温泉をはじめとした市域各所での疎開の受け入れ

右の地図のとおり、当時の戦争遺跡や貴重な資料などが、今もなお数多く残っています。



旧陸軍歩兵第五十連隊糧秣庫（赤レンガ倉庫）

旧陸軍歩兵第五十連隊の駐屯地が置かれていた信州大学敷地内には、現在でも当時の建物（赤レンガ倉庫）が一つだけ残っており、信州大学医学部の倉庫として使われています。

平成 24 年 8 月には、国の登録有形文化財となりました。



現在の様子

軍事工場跡（中山地区、里山辺地区）

松本では戦時中、いくつかの軍事工場が稼働していました。特に戦争末期には、大都市圏から疎開する形で地下式・半地下式の工場や、飛行機の格納庫が造られました。現在でも、名古屋から疎開した三菱重工航空機製作所の工場跡が残っています。



半地下工場



格納庫

三菱重工の元社員が語った、朝鮮人労働者との思い出

～（食糧不足の中）空腹を察して、半分くらいのご飯とみそ汁をご馳走してくれた。その優しさが泣けるほど嬉しかった。（中略）

朝鮮人労働者の国境を越えた忘れられない愛情ある人間性に惚れ込んだ。～

陸軍飛行場跡

市内南西部の地域、今の信州まつもと空港の近くに陸軍の飛行場が建設されました。神林・笹賀・今井の三地区にまたがり、現・菅野小学校西側に滑走路がありました。

戦後、飛行場の土地は農地や宅地となっていますが、当時の格納庫などのコンクリート基礎の一部は、菅野小学校グラウンドの基礎を兼ねており、今でも確認することができます。



昭和 23 年 上空から見た飛行場跡地



文書館で調べてみよう！



集団疎開

戦時中、空襲の被害を避けるために、都市から地方へ多くの人が疎開しました。松本でも、東京から学童疎開で来た約 4,000 人の児童を受け入れました。子どもたちは浅間温泉の旅館や各地の寺などに宿泊し、地域の小学校に通いました。



疎開児童が書いた絵手紙
（世田谷区教育史資料編六より）

～手紙が自分の手元に渡る時ほどうれしいことはありませんでした。～

これは、松本に疎開に来ていた子どもが、家族へ向けて書いた手紙の中の一文です。手紙には、先生から家族からの手紙を受け取る様子の絵が描かれています。子どもたちはまだ小学生です。家族と離れての生活は、心細いものだったのではないのでしょうか。

満蒙開拓団

1931 年（昭和 6 年）から、1945 年（昭和 20 年）に至るまで、旧「満州国」に国策として送り込まれた満州開拓移民。松本地域を含めた長野県全体からは、様々な開拓団や義勇隊を合わせ、約 38,000 人の人々が送り出されました。

終戦が間近にせまった 1945 年 8 月 9 日、ソ連軍が満州に侵攻を開始しました。これにより多くの開拓移民が命を落とし、生き残った人たちも厳しい生活を送りました。

～その時私は「死」と言う事に身震いした。なぜなら、義勇軍に志願した時から、五族協和王道楽土の満州国建設のため、大陸に骨をうずめる覚悟で土の戦士として来たのであって、軍人に志願してきたのではないからだ。～

当時の義勇隊員が語った思い出です。どこにいても安全な場所などなく、敵が攻めてきたら応戦せざるを得ない状況でした。その中に願って戦う人などいなかったでしょう。

もしもあなたが急に戦わなくてはいけなくなったら、いったいどうしますか？



満蒙開拓団として
移民した方々の名簿



戦時中のポスターの焼却を命じた書類

平成 26 年 9 月に新築された松本市文書館。『松本市史』の編さん事業の中で収集された資料や、各支所・出張所に保管されていた文書資料をはじめ、歴史資料として重要な公文書などを保存しています。

これまで紹介してきたことをより詳しく知るため、文書館にある様々な資料を使って調べてみましょう。

——第2章—— 核兵器を知る

核兵器の問題は、被爆地だけでなく、日本・世界全体で考えていくべきことです。

ここでは、大きな被害をもたらした核兵器についての知識を紹介します。それを足がかりに皆さんが自分で考え、意見を持っていただけたらと思います。

1945年8月6日と8月9日に広島と長崎に1発の原子爆弾が投下されました。

広島では14万人、長崎では7万人もの人が亡くなりました。たくさんの人が亡くなった原子爆弾には、爆風・熱線・放射線の3つの被害があります。

爆風

爆風のスピードは、爆心地付近で毎秒440mでした。飛行機が毎秒240mの速さで進むのに対して、約2倍のスピードでした。爆心地から近い木造の建物は跡形もなく吹き飛ばされ、鉄筋コンクリートの塀は傾くほどの威力でした。人も吹き飛ばされたり、建物の下敷きになって亡くなりました。

熱線

熱線は爆心地で3000度～4000度、1km離れたところで1800度という高温でした。一般的なマグマの温度は800～1200度といわれ、いかに高温だったかがわかります。熱線をあびた人は、皮膚が焼きつくされ、内臓などにまで障害を受けて、ほとんどの人が即死か数日のうちに亡くなりました。

殺
し
て
く
れ
！

赤い背中の少年

この少年は、電報を配達するため長崎市内の路上を自転車で走っていたところ、原爆の被害を受けました。背中全面が焼けただれ、病院へ運び込まれた少年はあまりの苦しさは何度も「殺してくれ！」と叫んだそうです。

放射線

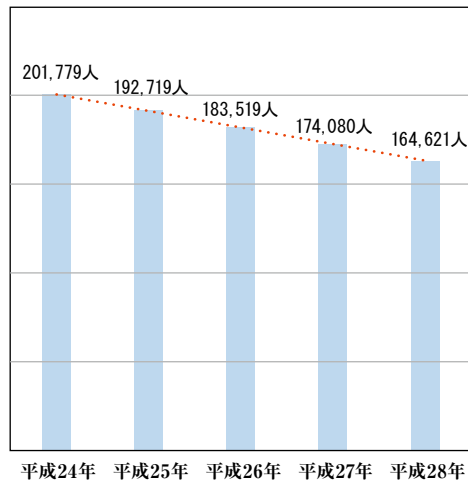
目に見えない放射線は、人びとの身体を貫いて、様々な細胞を破壊し、身体の奥深くを傷つけます。爆心地から1km以内で被爆した方のほとんどが亡くなりました。生き残った人も、時が経つにつれて、ガンや白血病などの症状を発症しました。このようなさまざまな症状を、原爆症と呼びます。

かつて日本は、戦争や原子爆弾の恐ろしさを味わいました。そして、戦争の恐怖・悲慘さ・愚かさは当時の人々の胸に深く刻み込まれました。

しかし、戦争から 70 年以上の月日が経ち、かつては子供だった人たちも高齢となり、戦争の体験を語ることができる方の数は年々少なくなっています。下のグラフの通り、被爆者の数についても同じことが言えます。平均年齢も 80 歳を超えており、戦争の体験を語り継いでいくことが必要です。

ここでは、長崎で原爆を経験した方の体験談を紹介しています。体験談を知り、戦争を経験しておらずとも、その恐怖・悲慘さ・愚かさを想像してほしいと思います。

被爆者数 推移



厚生労働省ホームページより

まつひら 松平さん(仮名)の戦争体験談

～長崎の記憶～



今日は、まつひらさんの長崎での原爆の体験談を教えてくださいと思っています。よろしくお願いします。

よろしくお願いします。

私は、12歳の時に長崎で原爆の被害に遭いました。ただ幸いなことに私の怪我は軽いものでした。原爆投下から二日後、私は両親を探しに行きました。

両親は仕事場近くの防空壕に避難していました。父は重傷を負っていました。母は軽傷で済んでいました。

父は足の切断が必要なほどの重症でした。



切断ですか・・・

人手も道具も物資も足りない状況でした。私は父の足を切断する手術を見守りました。麻酔のあと、道具は大工ののこぎりでした。父の呻く声や肉や骨を断つ音が、今でも耳の奥に残っています。しかし、父は助かりませんでした。

母は軽傷で済んでいたもので、安心していました。しかし、放射線のせいで急に体調が悪化しました。報せを受け、慌てて駆け付けた時には、母はすでに死の間際でした。「早く大きくなってね。」というのが、最期の言葉でした。私は、人生で何度もこの言葉に支えられました。

ご両親の命を奪った原爆を落としたアメリカを恨んでいますか？

いえ、アメリカに対する恨みというよりは、「戦争」に対する恨みですね。両親は戦争に殺されたと思っています。本当に悪いのは、戦争そのものです。

戦後、アメリカの高校生を 10 人ほど、ホームステイで受け入れた経験があります。アメリカでは、原爆は戦争を終わらせるために、必要なものであったと考える人が多いですが、長崎で原爆の被害を知り、考えを変える人も多くいました。

世界に原爆の恐ろしさを伝えていくことは大切ですね。最後に、この本を読んでいる人に伝えたいことはありますか？

戦争や原爆のリアルな被害を知り、自分や自分の家族・友達に同じことが起きたらと想像してみてください。

今日は貴重なお話をありがとうございました。

もっと
考えよう

もしも自分が松平さんと同じ立場だったら、どう感じるかな？ 想像してみよう。また、他の被爆者の方の体験談を調べてみよう。

さて、今まで核兵器とその脅威についてみてきました。
ここでは、そんな核兵器への疑問に少しでも答えたいと思います！

Q1. なんで核兵器はなくなるの？

A1. 核兵器がなくなる理由のひとつに、「**核の傘**」として核兵器が利用されていることがあげられます。

「核の傘」とは、核兵器を持つ国が自らだけでなく、核を持たない同盟国や親しい関係にある国も守るということです。

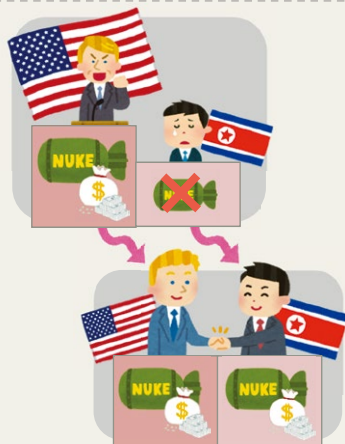
さらに、この「核の傘」の存在を世界に知らせることで、「核の傘の下にある国に手を出したら、ただではすまさないぞ」というメッセージにもなります。

※「核抑止」「拡大抑止」という言葉を使う場合もあります。



Q2. 核兵器を持つ国は、どうして手放さないの？

A2. 核兵器を持つことで、**さまざまなメリット**があるためと考えられます。



！北朝鮮を例に見てみましょう。

核を持つ国のひとつである北朝鮮は、「核を持っているぞ」と周りの国にアピールすることで、アメリカや中国、ロシアといった**大国同士と対等の話し合いの場を得よう**としているといわれています。

また、1990年代半ば～2000年代初頭にかけて、北朝鮮は核ミサイルの製造や核爆弾の実験を中止する見返りに、アメリカをはじめとする国際社会から**経済的支援**を受けていました。

Q3. 世界にはどのくらいの核兵器があるの？

A3. 世界には**約 15,000 発**もの核兵器があるといわれています。

！国別にみると以下の表のようになります。

国名	保有数	国名	保有数
ロシア	7,000	パキスタン	130～140
アメリカ	6,800	インド	120～130
フランス	300	イスラエル	80
中国	270	北朝鮮	10～20
イギリス	215		

ストックホルム国際平和研究所による推計、2017年7月現在、単位：発



長崎に落とされた
原子爆弾の模型

Q4. 世界は核兵器に対してどう対応しているの？

A4. さまざまな国際条約がありますが、近年「**核兵器禁止条約**」が採択されました。

「核兵器禁止条約」は、2017年7月、ニューヨークの国連本部で、世界122か国の賛成を得て採択されました。**核兵器を保有することや開発、実験、使用することなどを禁じた、これまでにない画期的な条約**となっています。

しかし、核兵器を持つ国や「核の傘」に頼っている国々は、この条約に反対しています。アメリカの「核の傘」の下にいる日本も、この条約に参加していません。

「核兵器禁止条約」により、核をとりまく動きがどのように変化していくのか、これからも注目が必要です。



核兵器禁止条約署名の様子、2017年9月
(平和首長会議ホームページより)

もっと
知ろう

核をめぐる問題は、日々変化しています。みなさんもまわりの人に聞いたり、自分で調べてみたりして、考えを深めてみよう！

——第3章—— 平和のつくり方

平和で、幸せに生きたい。

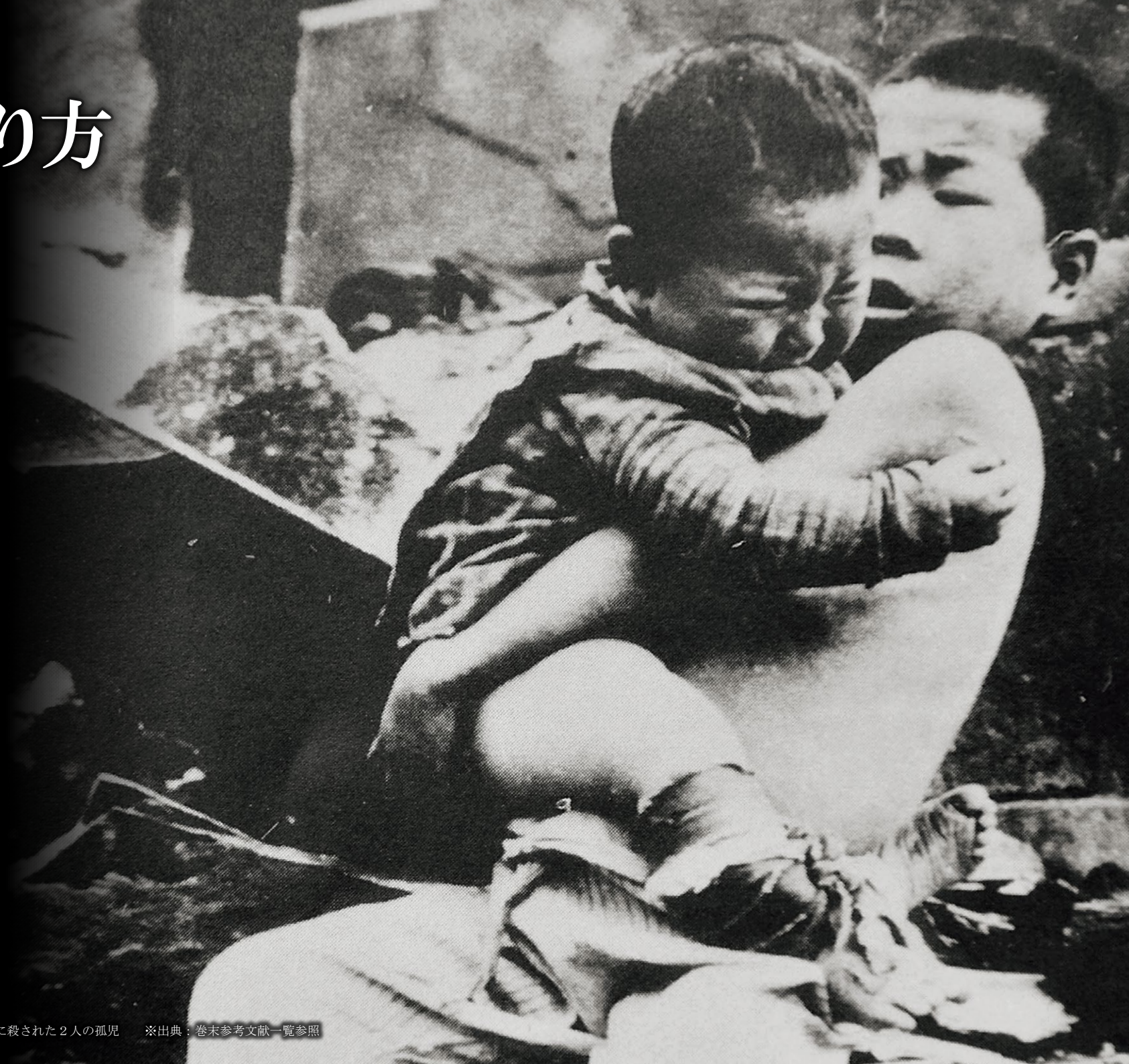
人類共通の想いであるにもかかわらず、なぜ世界中で達成されないのでしょうか。

先の大戦では多くの日本人が亡くなりました。同時に日本軍の攻撃によって多くの外国人が亡くなりました。

すべてのものごとには、必ず明るい面と暗い面の両面が存在していて、誰の目線から見のかによって正義か悪かも変わります。

一方的な解釈で「めでたしめでたし」と片付けることで、平和をつくることはできるのでしょうか。対立する相手の真意を探り、問題の根本原因を考えて、対話を重ねることが平和への道のりではないのでしょうか。

この章を通じて、戦争とはどのようなものであるか、争いのない世界をつくるために何ができるか、考えるきっかけとなれば幸いです。



ものごとを見るときに気を付けたいこと

桃太郎は村を襲った鬼を退治し、ヒーローとなりました。

しかし、退治された鬼の息子はどう感じたでしょうか？

おとうさん…
おかあさん…

なんで…？



「ひとりにしないでよっ…！！」

考えてみよう - 平和のためのワークー

正義と悪とは簡単に分けられるものなのでしょうか。鬼を退治した桃太郎は正義でしょうか。問題を解決するための手段は、鬼退治しかなかったのでしょうか。鬼の息子は将来どのように育つでしょうか。

もっと
考えよう

- ① 鬼という名前から受けるイメージはどのようなか考えてみよう。
- ② そもそも「鬼=悪」が成り立つのか考えてみよう。
- ③ 世界各地で起きている争いやテロ※に対して、空爆などの暴力でやり返すことは、どんな未来を導くか考えてみよう。

※テロ・・・政治的な目的を達成するため、暴力や破壊を行うこと。



さまざまな考え方があることは、何かの目的を達成しようとする人たちにとって、不都合になることがあります。そんなとき、自分たちの思った通りに皆を動かすための手段として、「プロパガンダ」と呼ばれるものがあります。

プロパガンダとは

自分たちの思った通り皆を動かすために、特定の考え方や思いを人々に伝える、広告や宣伝などの活動のことです。

例) 新しい流行を作ってお金をもうけたい

洋服を売る会社



テレビやインターネット



私たち消費者



実際にあったプロパガンダ

太平洋戦争中の日本

太平洋戦争時、国民を一つの考え方のもとにまとめるため、報道やポスターなど、さまざまな方法で政府によるプロパガンダが行われていました。戦争を体験された方のお話では、**国の言うことが正しいと思い込まされていた**といひます。

当時のプロパガンダを示すポスターや書類など、現在ではそのほとんどが残っていません。終戦後、国を動かしていた者たちが、責任を追及されることを恐れ、証拠隠滅のためポスターの焼却処分を命じたのです。

【日本で唯一松本に残る焼却命令書】

松本市文書館 (P4 参照) には、ポスターの焼却処分を命じた書類が日本で唯一保管されています。プロパガンダを考えるきっかけとして、見学してみてください。



厚生省 (当時) 発行のポスター
写真提供: 阿智村協働活動推進課

ナイラの証言

湾岸戦争 (1991 年) が起こったきっかけの一つは、「ナイラ」という名の少女の証言でした。「イラク軍がクウェートで、とてもひどい行為をしたのを見た」という証言は、少女の涙とともに広く宣伝され、アメリカ国民たちの多くは、イラクへの攻撃を支持しました。

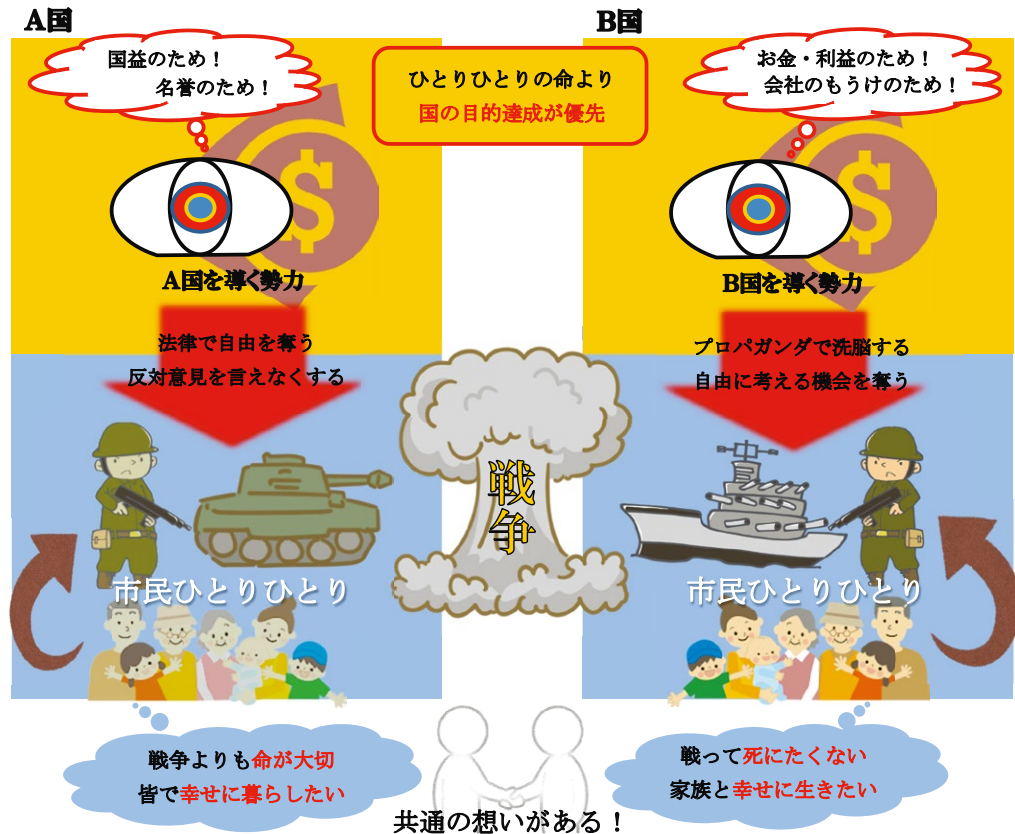
しかし、これは嘘の証言でした。クウェート政府から依頼を受けたアメリカの広告会社が、少女に嘘の証言をさせたと言われています。プロパガンダが、戦争につながったのです。

もっと
考えよう

身の回りにプロパガンダがないか考えてみよう。上の例以外にもプロパガンダの例を考えてみよう。

戦争を考える

私たちは今までの学びの中で、戦争がなぜ起こるのかを考え、いくつかの仮説を立てました。この図はそのうちの一例です。皆さんも、戦争とは何か、なぜ起こるのか自分なりに考えてみてください。



戦争はなぜ起こるのでしょうか。戦争したい人などいるのでしょうか。

私たちは、「国」としてひとまとめにされるものを、「国を導く勢力」と「市民ひとりひとり」に分けて考えました。

まず、図の上と下を見比べてください。「国を導く勢力」と「市民ひとりひとり」とでは、立場が異なるため、それぞれ違う考えを持っているのではないのでしょうか。過去には、プロパガンダや法律などで洗脳したり、取り締まったりして、皆が自由に考えて意見を言う機会を奪う事例がありました。こうして意見を奪われた市民は、正確な情報や自由な考えを持つことなく、戦争に踏み出してしまっているのではないのでしょうか。

反対に、図の青い部分を見比べてください。「市民ひとりひとり」では、**命を大切にしたい、幸せに生活したいという、共通の想いがある**と思います。市民同士が同じ想いを共有し、互いに問い合えること、そして、一方的な意見にとらわれない洞察力和判断力を身に付けることが、争いを避ける道につながるのではないのでしょうか。

もっと
考えよう

戦争が起こることで、得をするのは誰か考えてみよう。

紛争の解決方法

P1 - 4 「軍都」松本を知る
P5 - 10 核兵器を知る
P11 - 16 平和のつくり方

戦争が起き、人々が傷付く前に、争いを解決する方法は無いのでしょうか。ここでは、私たちが学んだ事例の一部を紹介します。

トランセンド法（超越法）

ノルウェーの平和学者、ヨハン・ガルトゥングが唱えた、争いを解決するための方法の一つです。

争っている者同士が妥協するのではなく、よく話し合い、お互いの気持ちや目標を理解し合って共感したうえで、これまでにない新しいアイデアによって、お互いが協力し合える良い関係を作る方法です。

例：りんごを分けよう！



例：南米・ペルーとエクアドルの和解

20世紀中、ペルーとエクアドルは、国境をめぐるたびたび戦争していました。ところが1998年の秋、争いのある地域に**国境線をもうけず、「自然公園のある2国間ゾーン」を作ろう**というエクアドルからの提案により、平和条約が結ばれました。

否定の平和と肯定の平和

否定の平和

戦争や核兵器、暴力に対する反対を、「否定」や「拒絶」というメッセージで発信するもの。

争いや暴力が、ただ無ければいいという平和に考えが向いており、前向きな気持ちやメッセージが伝わりにくく、多くの人からの共感を得にくいことがあります。

肯定の平和

平和に向けた**新しい仕組みを提案**したり、発信したりするもの。

前向きなメッセージや、皆が相手を理解したうえで納得するような方法を発信していくものです。過去、現在だけでなく、未来に考えを向けているため、人々の共感を呼びます。

否定や拒絶で終わるのではなく、**視野を広げて相手の立場を考え、理解することが平和づくりの第一歩になる**のではないのでしょうか。



もっと
考えよう

争いの解決方法として他にどんなものがあるか、りんごの例で考えてみよう。肯定の平和に基づいたメッセージを考えてみよう。

私たちの目標

平和の連鎖を若者世代で途切れさせることなく、より一層広げていくために、若者が平和について考え、学習し、発信する機会を設けます。この活動を通じて、**松本から世界へ平和を発信できる人材の育成を図ります。**

主な活動

学習と発信の二つを軸に、様々な活動を行っています。平和学習では、松本市内の戦争遺跡を巡るフィールドワークや、核兵器問題等についてのディスカッション、長崎市平和訪問での被爆遺構見学・大学生との交流等を行い、平和への知識を深めます。その成果を活かし、小中学校出前授業や留学生との意見交換会等、平和を発信する活動を行っています。



長崎市平和訪問



ナガサキ・ユース代表団との交流



被爆遺構の見学



平和学習会



文書館での学習

学習活動

発信活動



長崎市長・松本市長との平和トーク



小中学校出前授業



留学生意見交換会

【図書】

- ・『長野県史 通史編 第九巻近代三』 編集・発行：長野県
- ・『世田谷区教育史 資料編六』 発行：世田谷区教育委員会
- ・『戦争と子どもたち—世田谷区の学童疎開—』 編集：世田谷区企画部企画課 発行：世田谷区
- ・『伝えたい私たちの戦争体験 平和への祈りをこめて』
編集：松本市行政管理課・松本市文書館 発行：松本市
- ・『伝えたい私たちの戦争体験-第二集- 平和への祈りをこめて』
編集：松本市行政管理課・松本市文書館 発行：松本市
- ・『松本市における戦時下軍事工場の外国人労働実態調査報告書』
編集：松本市近代・現代部門編集委員会 発行：松本市
- ・『NHK「ラジオ深夜便—被爆を語り継ぐ」』 編者：西橋正泰 発行所：新日本出版社
- ・『イアブック「核軍縮・平和 2015-17」—市民と自治体のために—』
編著者：特定非営利活動法人ピースデポ 発行所：緑風出版
- ・『平和発信用ガイドブック STEP』
編集：長崎市青少年ピースボランティア/長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)サポーター
発行：長崎市被爆継承課
- ・『日本人のための平和論』 著者：ヨハン・ガルトゥング 発行所：ダイヤモンド社
- ・『世界から戦争がなくなる本当の理由』 著者：池上彰 発行所：祥伝社
- ・『なぜ、世界から戦争がなくなるのか?』
著者：池上彰、「池上彰緊急スペシャル!」制作チーム 発行所：SBクリエイティブ
- ・『プロパガンダ・ポスターにみる日本の戦争』 編著者：田島奈都子 発行所：勉誠出版
- ・『人権学習シリーズ ぶつかる力 ひきあう力 一対立と解決—』
編集：財団法人大阪府人権協会 発行：大阪府政策企画部人権室

【ホームページ】※全て2018年3月閲覧

- ・長崎原爆資料館ホームページ <http://nagasakipeace.jp/index.html>
- ・広島市ホームページ <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/index.html>
- ・広島平和記念資料館ホームページ <http://hpmuseum.jp/>
- ・外務省ホームページ http://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/rp/page23_000874.html
- ・厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049131.html>
- ・SIPRI ホームページ
<https://www.sipri.org/media/press-release/2017/global-nuclear-weapons-modernization-remains-priority>

【写真】

- ・5-6 ページ写真提供：長崎市被爆継承課、(一財)長崎原爆被災者協議会
- ・11-12 ページ写真出典：「写真集・南京大虐殺」編者：「写真集・南京大虐殺」を刊行するキリスト者の会 発行所：株式会社エルピス 1995年4月30日発行 94ページ